



カリオカの風

リオデジャネイロ日本人学校通信

11月号

令和7年11月 3日

校長 小堺 広司

学校教育目標

「やさしく

かしこく

たくましく」

～世界の架け橋となる子ども
たちの育成を願って～



文化がいっぱい 大きく成長 リオ日学の春（秋）

～ 行事を通して大きく成長できました。関わってくださった皆様に感謝です ～

いよいよ11月です。カレンダーも残すところあと2枚となりました。

寒暖の差が大きく、体調を崩しやすい時期ですが、日常の学びを大切に、12月5日の終業式まであとひと月をしっかりと過ごしましょう。

日本なら「文化の秋」ですが、例年がないリオの肌寒い日々から、文字通りの文化に満ち溢れ、学習に、行事に、充実の時を迎えています。リオ日学の教育に携わってくださる皆様に感謝いたします。これからもよろしくお願いします。

<文化祭は大成功でした>

10月18日（土）、保護者・商工会員の皆様・モデル校、連邦大、州立大学の皆様をお迎えして、「昔も今もこれからも～日本人とブラジル人はAmigos」のテーマで文化祭を実施しました。

合唱・合奏・日系移民130年に係る発表など、準備してきた成果が存分に発揮され、ゲストのブラジル人学生さん方の発表も素晴らしく、とても充実した会となりました。ありがとうございました。



○全校朝会校長講話（11月3日）より

『歌の力（O poder da canção）』という話をします。

1枚の写真をみてください。彼はケンジさんという連邦大学生です。先日行われた文化祭の劇で、捨てられた犬の役をやった彼です。皆さんが歌うCarinhosoを聴いて大泣きをしてしまったのです。なぜ泣いたのでしょうか。予想してみてください。

- 1 音楽が大好きで、音楽を聴くとすぐに泣いてしまうから。
- 2 歌の歌詞がとてもシンプルで美しかったから。
- 3 日系人として、自分の原点に近づくことができたから。
- 4 文化祭テーマ「日本のブラジルとの友好」から、ポルトガル語で歌っていることが、まるで詩のようだったから。

答えは全部です。とにかく歌っている皆さんの姿が「美しい瞬間」であり、泣けて泣けて仕方なかったそうです。この話を聞いて、私は「歌には力がある」と感じました。

ジョンレノンという歌手を知っていますか。イギリス出身のビートルズという世界的に有名なグループの元メンバーで、アメリカ・ニューヨークに移り住んでからも活動し、残念ながら熱狂的なファンによって射殺されてしまいました。9月の朝会で、2001年、ニューヨークの世界貿易センタービルに飛行機が激突し、3000人の方が亡くなった話をしました。人々はその悲しみを乗り越えるためにジョンレノンのイマジンという曲を歌ったのです。また、彼が銃に撃たれて亡くなった家の近くのセントラルパークにスプリングフィールドという追悼碑を建てて、毎年ファンがここに集まってイマジン进行曲を歌います。この曲は、世界の平和を願い、「想像してごらん。今を生き、平和に生き、世界を分かち合い、いつかみんな仲間になって、きっと世界は一つになるんだ」と歌っています。リオも含めて、世界の各地で命が奪われる悲しい出来事が起きる時代に、最も大切なメッセージを込めた歌です。「歌の力」を信じて、平和を願い、亡くなった方の魂に問いかけながら「イマジン」を歌ってみます。

最期にもう一曲、ニューヨーク出身ビリージョエルという歌手のオネスティーを歌います。彼は有名になる前、たくさん人に裏切られ悲しい思いをしました。オネスティーは誠実・正直という意味です。「誠実とはなんて淋しい言葉なんだろう。でも、そのことを君に求めたい」と歌い、誠実に生きて、人を信じる決意をします。私自身、人を傷つけたり、生きることに迷う時、誠実だけが自分にできることであり、この歌を何度も歌っては、自分を励ましてきました。皆さんも、「歌の力」を信じ、誠実に生きてみませんか。